

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 5 月 22 日現在

機関番号：34315

研究種目：基盤研究(B) (海外学術調査)

研究期間：2013～2016

課題番号：25301016

研究課題名(和文) 中東と中南米における体制転換の実証的比較研究：政党・軍・市民社会

研究課題名(英文) Comparative Empirical Studies on regime changes in the Middle East and Latin America: Political Parties, Military and Civil Society

研究代表者

末近 浩太 (SUECHIKA, KOTA)

立命館大学・国際関係学部・教授

研究者番号：70434701

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 10,200,000円

研究成果の概要(和文)：中東とラテンアメリカにおける体制転換/非転換の規定要因として本研究が着目した政党、軍、市民社会について、軍の役割が両地域において特に重要な役割を果たしてきたこと、軍が体制転換後の民主化の帰趨を左右するアクターであることが、浮き彫りになった。軍の動向については、構造的要因よりも、アクターの要因としての軍組織の特徴において一定の共通性が観察された。

市民社会の役割については、アクターとしての社会運動の政治的帰結が必ずしも運動自体の合理的な目標設定を基準としていないことが確認された。制度外のアクターである社会運動は予期せざる結果をもたらすことが多く、それゆえに、その理論化は今後の課題とした。

研究成果の概要(英文)：This research focused on roles of the political parties, military, and social movements in the regimes changes in the Middle East and Latin America. It is likely that the most significant determinant for the regime changes and political transition is the military; i.e. whether or not it has matured 'professionalism' and what ethnic, sectarian, class components it has. As for the social movements, conceptualization and theorization of their political outcomes for the political changes in the both regions as the social science has traditionally put significant emphasis on its formation and development instead. Therefore, this research could observe that the outcomes of the social movements in the Middle East and Latin America often seem 'unpredictable', which is not necessarily relevant to their initial objectives. Thus, the research will need more case studies for the future development of this matter.

研究分野：中東地域研究

キーワード：比較政治学 中東 ラテンアメリカ 民主化 権威主義 社会運動

様式 C-19、F-19-1、Z-19、CK-19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

2010年未からの「アラブの春」と呼ばれた政治変動は、中東政治研究に大きな転換をもたらした。それまでは、非民主的な体制が長期にわたり存続する強靱性についての研究が続けられてきた。これらの研究は、欧米の政治学の理論的成果を援用することで、民主化研究における根強い「中東例外論」を超越することを目指し、権威主義体制研究の理論化および比較政治学の発展に貢献した。しかし、そこで証明されたはずの体制の強靱さは、「アラブの春」によって再び揺らぐこととなった。強靱なはずの権威主義体制が崩壊する、という「新たな中東例外論」が浮上し、中東政治研究は再び一般理論へ挑戦する立場に置かれた。すなわち、問題関心は、非民主的な体制が「例外的」に長期間存続したにもかかわらず、なぜいとも簡単に崩壊したのか、という問いに移行していった。

2. 研究の目的

本研究の目的は、研究代表者がおこなってきた中東の政治変動に関する研究をふまえて、(1)近年の中東地域における体制転換の実証分析を進めるとともに、(2)他地域との比較研究を実施し、体制転換の過程とその分析枠組みを系統的に考察すること、である。比較対象は、発展途上地域でもっとも早く体制転換を経験した中南米(ラテンアメリカ)である。最終目標は、世界各地の非民主的な政治支配の転換・崩壊過程を分析し、「民主化」が抱える諸問題を検討するとともに、その分析枠組みを一般化することにある。それにむけ、本研究では、構造・歴史・理論などの多角的な観点から中東諸国の綿密な調査分析と比較研究を実施すると同時に、中南米地域の事例との比較研究をとおして、事例分析の結果と分析枠組みを検証し、理論化への方向性をさぐった。

3. 研究の方法

中東政治研究と中南米政治研究を専門とする7名が、(1)総括・比較班、(2)中東班、(3)中南米班の3つの研究班にわかれ、研究分析活動の諸機能を効率的に分掌する体制をとる。比較分析枠組みの検証のため、他地域の専門家2名が研究に参加した。研究期間を3年とし、全体を9ヶ月ごとの4段階にわけ、各段階で1つのテーマについて比較分析をおこなった。テーマは、第一段階が政党のあり方と相互関係、第二段階が政治に対する軍の姿勢と動向、第三段階が市民社会のあり方で、最後の第四段階で比較分析枠組みを検証する。各段階で、現地調査、全体研究会や各班研究会、ワークショップないしシンポジウムを実施する。

4. 研究成果

中東とラテンアメリカにおける体制転換/非転換の規定要因として本研究が仮説的に着目した政党、軍、市民社会(特に社会運動)について、(1)とりわけ軍の役割が両地域において重要な役割を果たしてきたこと、(2)軍が体制転換後の民主化の帰趨を左右するアクターであることが、あらためて浮き彫りになった。

軍の動向を左右する要因(政権を裏切るか否か)については、構造的要因に着目した場合には各国の事情の違いを平準化・理論化することに困難がともなったが、アクターの要因としての軍組織の特徴(例えば、プロフェッショナリズムの成熟度合い)に関しては、中東とラテンアメリカの両地域で一定の共通性を見ることができた。

これに対して、体制転換における市民社会(社会運動)の役割については、社会科学の分野においていまだに理論化が進んでいないことが明らかになった。すなわち、アクターとしての社会運動の実態に関する研究は社会学を中心に理論化が進められてきた一方で、それがいかなる政治的帰結をもたらしたのかという点については、個別の(叙事的な)事例研究は存在していても、比較の視座や理論化への射程はそれほど多く見られない。中東のイスラーム主義運動やラテンアメリカの民族運動の個別事例研究を通して、政治的帰結が必ずしもアクターとしての社会運動の合理的な目標設定を基準としていないことが明らかになった。換言すれば、制度外のアクターである社会運動は予期せざる結果をもたらすことが多く、それゆえに、理論化を目指すことは今後の課題とした。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計21件)

濱中新吾 “Demographic Change and Its Social and Political Implications in the Middle East”, *Asian Journal of Comparative Politics*, 2(1), 2017年, pp.70-86, 査読有

濱中新吾 “Military Service as a Process of Political Socialization: The Case of Universal Conscription in Israel”, 『日本中東学会年報』, 32(1), 2016年, pp.71-87, 査読有

末近浩太 「クサイルからの道: ヒズブツラーによるシリア『内戦』への軍事介入の拡大」, 『中東研究』522号 Vol.3, 2015/16, 2016年, pp.52-64, 査読無

濱中新吾 「エジプト革命におけるソーシャル・メディアの役割」, 『年報政治

学』2015年度第 号,2015,pp.189-211, 査読有
濱中新吾「アラブ革命の陰で：パレスチナ人の国際秩序認識に反映された政治的課題」,『国際政治(特集 中東の政治変動)』,178巻,2014年,pp.28-43,査読有
末近浩太「序論 中東の政治変動：開かれた「地域」から見る国際政治」,『国際政治』(特集 中東の政治変動),178巻,2014年,pp.1-14,査読有
濱中新吾「中東諸国の体制転換/非転換の論理」,『日本比較政治学会年報(特集 体制転換/非転換の比較政治)』,16巻,2014年,pp.49-77,査読有
宮地隆慶 “Referendum as performance? : a quantitative analysis of government-initiated referendums under democratic regimes in Latin America from 1979 to 2010 ”, 『社会科学』,101巻,2014年,pp.1-25, 査読無
末近浩太「シリア問題は世界に何を突きつけたのか(特集 現代思想の論点21)」,『現代思想』第41巻17号(2013年12月号),2013年,pp.183-189,査読無
末近浩太「クサイルへの道：シリア『内戦』とヒズブッラー(焦点 中東の政治変動とイスラーム主義)」,『中東研究』第518号(9月),Vol.2,2013/14,2013年,pp.54-65,査読無

〔学会発表〕(計33件)

宮地隆慶「国家と政府の歌われ方：『麻薬戦争』の時代におけるメキシコのナルココリードと日本語ヒップホップの比較」,ラテン・アメリカ政経学会,2016年11月7日,東京大学駒場キャンパス(東京都、目黒区)
松尾昌樹 “Ethnocracy in the Arab Gulf States: Non-inclusive Migration Policy in Rentier States”, 日本国際政治学会,2016年10月15日,幕張メッセ(千葉県、千葉市)
末近浩太 “The Rise of the Pan-Shiites Militia Network: Hizballah’s Military Intervention in the Syrian Conflict(s)”, BRISMES Annual Conference 2016(国際学会),2016年7月14日,ウェールズ・トリニティ・セント・デイビッド大学(ランピター、英国)
松尾昌樹 “Ethnocracy in the Arab Gulf States from the Perspective of Neo-Plural Society, Asian Studies Conference in Japan(国際学会),2016年7月3日,国際基督教大学(東京都、三鷹市)
松尾昌樹 “Formation of Neo-Plural Societies as Emerging Migration

Regimes”, Association for Asian Studies(国際学会),2016年6月26日,立命館大学(京都府、京都市)
宮地隆慶 “First Steps for Academic Cooperation of Latin Americanists in East Asia, International Forum “East Asian Partners Dialogue on Latin American studies” (国際学会),2016年6月15日,中国社会科学院(上海、中国)
宮地隆慶 “Research for What? Development and Diversification of Latin American Area Studies in Japan”, XXXIV International Congress of the Latin American Studies Association(国際学会),2016年5月28日,ニューヨーク・ヒルトン・ミッドタウン(ニューヨーク、アメリカ)
濱中新吾「阻止条項をめぐるエスノポリティクス」,日本選挙学会,2016年5月14日,日本大学三崎町キャンパス(東京都、千代田区)
宮地隆慶「ラテンアメリカ諸国の徴税能力に見られる新しい動向に関する考察」,日本国際政治学会2015年度研究大会・分科会C-5ラテンアメリカ,2015年10月31日,仙台国際センター(宮城県、仙台市)
宮地隆慶「戦争・多民族性・社会運動：ラテンアメリカ諸国の国家建設に関する比較分析に向けて」,日本比較政治学会2015年度研究大会・分科会E「社会運動の比較政治学」,2015年6月28日,上智大学(東京都、千代田区)
末近浩太「中東政治は『宗派対立』を乗り越えることができるのか：『アラブの春』から『イスラーム国』へ」,日本中東学会第31回公開シンポジウム「中東の『長い19世紀』：流動化する地域秩序、政治化する『宗派』」(招待講演),2015年5月16日,同志社大学(京都府、京都市)
吉川卓郎 “His Majesty's Armed Forces: Reassessment of Hashemite Kingdom of Jordan's Military Capabilities before/after the Arab Spring”, ISA Global South Caucus Conference 2015, Singapore, “Voices from Outside: Re-shaping International Relations Theory and Practice in an Era of Global Transformation”, 2015年1月10日,シンガポール・マネージメント大学(シンガポール、シンガポール)
末近浩太 “Nation Building and National Army in Deeply Divide Society: A Case of Lebanon”, ISA Global South Caucus Conference 2015, Singapore, “Voices from Outside:

Re-shaping International Relations Theory and Practice in an Era of Global Transformation”, 2015年1月10日,シンガポール・マネージメント大学(シンガポール、シンガポール)
濱中新吾 “Military Service as a Process of Political Socialization: The Case of Universal Conscription in Israel”, The 2014 ANPOR Annual Conference in Niigata, 2014年11月30日,朱鷺メッセ(新潟県、新潟市)
吉川卓郎 「国王陛下の軍隊: ヨルダン・ハシミテ大国の『軍事力』の再検討」, 日本国際政治学会 2014年度研究大会(中東分科会), 2014年11月14日,福岡国際会議場(福岡県、福岡市)
松尾昌樹 “Ethnocracy in the Arab Gulf Countries: From the Analysis of Labor Market”, The Fourth World Congress for Middle Eastern Studies (WOCMES), 2014年8月20日,中東工科大学(アンカラ、トルコ)
末近浩太 “Reconfiguring Sectarian and National Identities in Lebanon: The Case of the Lebanese Armed Forces (LAF)”, The Fourth World Congress for Middle Eastern Studies (WOCMES), 2014年8月19日,中東工科大学(アンカラ、トルコ)
末近浩太 “The “Resistance Axis” and Its Implication for the Post-Arab Spring Middle East Regional (Dis)order,” Special Session 2 “Examining Preventive Diplomacy in the Middle East from the Perspective of Area Studies”, 日本中東学会第30回年次大会, 2014年5月11日, 東京国際大学(埼玉県、所沢市)
村上勇介 「ペルーの政党政治: 民主化以降の展開」, 日本国際政治学会, 2013年10月27日, 新潟朱鷺メッセ(新潟県、新潟市)
末近浩太 「多宗派社会における国軍: レバノンの宗派制度と暴力装置」, 2013年度日本比較政治学会研究大会・分科会E「紛争と国家建設における軍・準軍事組織・治安機関の役割」, 2013年6月24日, 神戸大学(兵庫県、神戸市)
②1 濱中新吾 「中東諸国の体制転換/非転換の論理」(招待講演), 日本比較政治学会, 2013年6月23日, 神戸大学(兵庫県、神戸市)

〔図書〕(計19件)

仙石学・小森宏美・中田瑞穂・横田正顕・出岡直也・村上勇介, 『脱主自由主義の時代?: 新しい政治経済秩序の模索』, 2017年, 196:169-193(村上)
私市正年・濱中新吾・横田貴之・松尾昌樹・今井真士・岩坂将充・岩崎えり

奈・金谷美紗・北沢義之・吉川卓郎・小林周・清水雅子・清水学・白谷望・末近浩太・鈴木啓之・高岡豊・辻上奈美江・松本弘・山尾大, 『中東・イスラーム研究概説: 政治学・経済学・社会学・地域研究のテーマと理論』, 明石書店, 2017年, 392:10-18(浜中)、19-28(末近)、39-48(吉川)、78-85(松尾)
宇佐見耕一・菊池啓一・馬場香織・岡田勇・村上勇介・坂口安紀・近田亮平, 『ラテンアメリカの市民社会組織: 継続と変容』, 日本貿易振興機構アジア経済研究所, 2016年, 265:113-147
松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎・溝淵正季・末近浩太・岩崎えり奈・渡邊祥子・金城美幸・円城由美子・今井宏平・村上拓哉・坂梨祥・吉岡明子・江崎智絵・掘抜功二・井堂有子・平井文子・岩坂将充・細田尚美, 『中東の新たな秩序』(グローバル・サウスは今 第3巻), ミネルヴァ書房, 2016年, 362:i-ii、1-14、59-79(松尾)、41-58(末近)、284-302(吉川)
久保慶一・末近浩太・高橋百合子, 『比較政治学の考え方』, 有斐閣, 2016年, 290pp. (1-290)
末近浩太・足立研畿・板木雅彦・大田英明・中本真生子・池田淑子・西村智朗・石原直紀・南野泰義・大島堅一・益田実・星野郁・高橋伸彰・中川涼司・南川文里・岡田滋行・ライカイ・ションボル, 『プレリウド国際関係学』, 東信堂, 2016年, 296pp. (103-146)
末近浩太・酒井啓子・池田明史・玉田芳史・鈴木恵美・井上あえか・松本弘・久保慶一・山尾大・五十嵐誠一・横田貴之・増原綾子, 『途上国における軍・政治権力・市民社会: 21世紀の「新しい」政軍関係』, 晃洋書房, 2016年, 328pp. (168-193)
末近浩太・村上勇介・岩下明裕・仙石学・小森宏美・福田宏・帯谷知可・長岡慎介, 『融解と再創造の世界秩序(「相関地域研究」第2巻)』, 青弓社, 2016年, 212pp. (42-73) (94-113)
村上勇介 「ポストネオリベリズム期ペルーの社会紛争と政治の小党分裂化」村上勇介編 『21世紀ラテンアメリカの挑戦 ネオリベリズムによる亀裂を超えて』, 京都大学学術出版会, 2015年, 184pp.
村上勇介 「ネオリベリズム後のラテンアメリカ」村上勇介編 『21世紀ラテンアメリカの挑戦: ネオリベリズムによる亀裂を超えて』, 京都大学学術出版会, 2015年, 184pp.
松尾昌樹 「増え続ける移民労働者に湾岸アラブ諸国政府はいかに対応すべき」細田尚美編 『湾岸アラブ諸国の移

民労働者：「多外国人国家」の出現と生活実態』, 明石書店, 2014年, 300pp.
吉川卓郎「ヨルダン：紛争の被害者か、受益者か」青山弘之編『「アラブの心臓」に何が起きているのか：現代中東の実像』, 岩波書店, 2014年, 240pp.
末近浩太「レバノン：『決めない政治』が支える脆い自由と平和」青山弘之編『「アラブの心臓」に何が起きているのか：現代中東の実像』, 岩波書店, 2014年, 240pp.
宮地隆廣『解釈する民族運動：構成主義によるボリビアとエクアドルの比較分析』, 東京大学出版会, 2014年, 352pp.
末近浩太『イスラーム主義と中東政治：レバノン・ヒズブッラーの抵抗と革命』, 名古屋大学出版会, 2013年, 480pp.

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況（計 0 件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

末近 浩太 (SUECHIKA, KOTA)
立命館大学・国際関係学部・教授
研究者番号：70434701

(2) 研究分担者

松尾 昌樹 (MATSUO, MASAKI)
宇都宮大学・国際学部・准教授
研究者番号：10396616

吉川 卓郎 (KIKKAWA, TAKURO)
立命館アジア太平洋大学・
公私立大学の部局等・准教授
研究者番号：30399216

濱中 新吾 (HAMANAKA, SHINGO)
龍谷大学・法学部・教授
研究者番号：40344783

村上 勇介 (MURAKAMI, YUSUKE)
京都大学・東南アジア地域研究所・
准教授
研究者番号：70290921

宮地 隆廣 (MIYACHI, TAKAHIRO)
東京外国語大学・その他部局等・准教授
研究者番号：80580745

(3) 連携研究者

安井 伸 (YASUI, SHIN)
慶應義塾大学・商学部・准教授
研究者番号：00365462

仙石 学 (SENGOKU, MANABU)
北海道大学・スラブ・ユーラシア研究セ
ンター・教授
研究者番号：30289508

(4) 研究協力者

()